



小島 智恵 議員
(政風クラブ)



1月23日、役場庁舎において駒島地区における大規模酪農場建設計画の記者発表が町長同席のもと行われ、町民から歓迎や期待の声が高まっている。計画では、3か年で乳用牛4300頭飼育、家畜ふん尿活用のバイオガス発電プラントの併設、消化液の畑作農業者への提供など、循環型農業を目指している。また、従業員100人の雇用が見込まれ、定住者の増加や地域経済の活性化も期待される。一方、地理的には高地に立地されることから、汚水の流入など地域住民から懸念の声も聞かれる。今後の成功を願い、以下の点について伺う。

- (1) 家畜ふん尿の汚水対策（全量処理できるのか）、地域住民への説明会は。
- (2) 防疫体制は。
- (3) 牧場車両往來のための町道整備は。
- (4) 従業員の住宅確保に対する町の考えは（空き家対策）。

問	答
大規模酪農場建設で低地の河川等への汚水（ふん尿）流入の懸念はないか	飼養頭数に合わせた規模の施設が整備され、バイオガス発電と堆肥化が行われる

町長 (1) 牧場内で発生するふん尿の大部分は、牛舎からバイオガスプラントの原料槽に直接投入され、発酵槽で一定期間滞留したのち、発電機の原料となるメタンガスと消化液を生産。残りのふん尿は、施設内のかくはん装置を備えた堆肥舎で堆肥化される予定。地域説明会は、駒島公区を対象に3月10日に開催される。



大規模酪農場建設予定地
手前は町道（駒島地区）

(2) 防疫対策で最も重要なことは、発生の予防。当該事業者は町外で

るものについて、トータルで事業者側と協議していく。

問	答
糠内地区の振興策は	空き店舗対策ではなく、有効な手だては打ちたい



糠内地区では、開業していた飲食店が閉店し、地域活力の減退が懸念される。一方、地域の町営住宅は空室がなく、希望者がいても入居できない状況もあると聞く。今後の対策について、以下の点について伺う。

- (1) 糠内地域は空き店舗対策事業の対象地域となっていないが、今後に向けた考えは。
- (2) 町営住宅の入居状況、今後の建設予定、定住対策は。

も大規模牧場を経営しており、万全を期していただけたと考える。

(3) 施設全体が完成し、全体の交通量や大型車の混入率がどうなるかを勘案し、協議を進めていきたい。工事期間中の通過交通の増加については、散水車による防塵対策や路面修復など、沿線農地や営農に支障が出ないように、事業者に対し指導していきたい。

(4) 合併後人口減少が著しい忠類地域を中心に居住していただきたいとの思いはあるが、今後、従業員の配置状況が明らかになり次第、住宅の確保について事業者と協議していきたい。

再質問 (1) ふん尿の臭いへの懸念の声がある。(2) 町道は町で整備すべき。

答 (1) 牛舎内で発生するふん尿は、直接原料槽に投入される。臭いは発生しづらいと考えている。(2) 町道整備は必ずしも町が全額負担とはなっていない。今後、課題とな

町長 (1) 空き店舗対策事業の指定区域は、商業地域と近隣商業地域を基本に、中心市街地の商店街の空き店舗を解消し、連担性を高めることで人の往來を回復し、商店街での消費向上を目的とした事業。糠内地区を対象とすることは難しい。

(2) 町営住宅の3棟6戸の全戸が入居済み。町公営住宅等長寿命化計画では、糠内地区は現状の6戸を維持管理することとしており、新規の建設予定はない。